

街道を歩く

新居宿 舞阪宿より1里半

本陣3、脇本陣0、問屋1、旅籠26。町並み14町19間。荒井、荒堰とも書かれ、旧名猪鼻駅。箱根と共に関東を守るべく関所が置かれた宿。俗にいわれる”入り鉄砲と出女”の取り締まりである。

関所跡

正式名称は”今切関所”慶長5年(1600)に設けられる当初は今切に近い港町(大元屋敷)、その後津波や地震で柏原(中屋敷跡)へ、次に現在地に移される安政2年(1855)の関所建物が解体、修理(昭和47年)され残る。近くに船着き場の遺構、資料館。

東海道遠江・駿河:12舞阪一新居



飯田本陣跡

舞阪宿 浜松宿から2里3町

本陣2、脇本陣1、問屋1、旅籠28。町並み6町余。地名は象嶋(柴江の説あり)、廻沢、舞沢、前沢、前坂、舞坂となり、明治22年市町村制施行で舞阪となる。宿西端が渡船場。明応7年(1498)の地震により”今切”ができ浜名湖が淡水湖から汽水湖(川の水と海水が混ざる)に変わる。



脇本陣

屋号は”茗荷屋”堀江家。天保9年(1838)建築。明治42年~10年間ほど役場になる。平成9年解体修理される。東海道唯一の現存脇本陣。向かい側に本陣跡碑

がんげ 本雁木・北雁木・南雁木

今切の渡し舞阪側の渡し場。石垣を築き水際まで石を敷き詰めて造られていた。階層によって利用がわかれていた。北雁木は諸侯用。本雁木は武家用。南雁木は庶民や荷物の積み降ろし場。現在北雁木が残る。渡船場の管理は新居側にあった。



宝珠院

舞阪に海苔の養殖を伝えた森田屋彦之丞(信濃出身海苔商人)と大森三次郎(江戸出身海苔職人)の墓がある。



教恩寺

建久元年(1192)頼朝が上洛の時家臣が止陣したので遊女が集まった。その時頼朝に寵愛された遊女が頼朝没後尼(妙相)となり寺を建立したとの伝え。



堂頭の松

かつて「トウトノハナ」という岬だった頃今切渡船の航路標識となっていた松。

浜名橋跡

浜名湖が切れる以前湖から流れる川に架かっていた鎌倉街道筋の橋。平安時代から歌に詠まれている。
”影たえてしたゆく水もかすみけり
はまなの橋の春の夕暮”藤原定家



岐佐神社 祭神 蛸貝比売命、蛤貝比売命

本殿横に赤みかかった石。古事記に出てくる赤石大国主命に八上比売を取られたので兄達が大國主命を殺そうと、「山の上から猪を落とすから受け止めよ」と命令。猪の代わりに赤く焼けた石を落とし、捕らえようとした大國主命は火傷で死ぬ。そこで母は神皇産靈神に命をう。天界から二人の比売命が降りてきて治す・・・話。